

101

簡易な卵管通水法

矢内原 啓太郎

(同仁會青島診療班)

八木¹⁾ はイルリガートルを用ひ2mの高さから卵管通水法を試み倉橋²⁾、石黒³⁾等もその追試を發表した。B. Slámová⁴⁾ は壓力計を附した注入器を用ひて卵管通水を試み實驗200例を報告した。余は手近の硝子製30cc灌腸器を用ひて極めて簡易に本法を行ひその目的を達した。

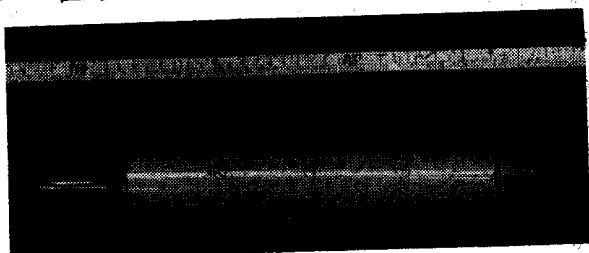
實驗材料は昭和16年6月から同11月の期間に於ける當班の外來及び入院患者から撰び不妊を主訴とした成熟婦人で性器に發育異常なく不妊の主因が卵管の不通に存する如く推断せられたもの限り性器に急性及び亞急性炎症、並に出血ある者を禁忌とした。また必要の場合は頸管分泌物の細菌検査を行ひ上行傳染の危険を避けた。實施は陰鏡で子宮腔部を露出消毒固定後前記灌腸器に生理的食鹽水30ccを入れ先端を頸管内に挿入輕壓で注入し特に注入液の漏出を防ぐ。挿入が適當であれば液は最初5-7cc殆ど無抵抗で入り、その後は輕壓で卵管疏通の際は20-30ccに至らしめ得る。もし強い抵抗のある場合は壓を去り筒内に液の逆流するのを見た上、さらに加壓し終に全く注入不能に至つた所で不通と判定する。(Slámováは200-300cm Hgまで加壓し得ると云ふが實際はそんな高壓は必要ない。別に灌腸器に壓力計を附して手に感ずる抵抗を實驗しておけば壓力計はなくとも注入時の壓を推定し得る)。注入には暴力を嚴禁する。無麻酔で行ひ、もし腹痛が強ければ中止し數日後反復の必要のこともある。實施後外來患者はそのまま歸宅させても支障ない。開腹手術前に行ふ時は腰麻下で、また卵管造影法を併用する時はその直前に試み

- 1) 八木日出雄：近畿婦人科學會雜誌。13卷，605頁。
- 2) 倉橋幸夫：倉敷中央病院年鑑。12年，184頁。
- 3) 石黒徳春：産科と婦人科。8卷，735頁。
- 4) B. Slámová：Zbl. Gyn. Nr. 16, s. 938, 1936.

た。

實驗 41 例ありその年齢は 19-40 歳で原發不妊 27 例，二次不妊 14 例で不妊期間は 1-3 年 12 例，4-21 年 29 例で，本法で卵管疏通と診定したものの 20 例，不通 21 例であつた。通水量は卵管不通例では 7-10 cc 14 例，12-20 cc 7 例，疏通例では 15-30 cc であつた。全例中開腹手術及び造影法で診断を確定したものは 24 例あり，このうち不通例中 1 例の誤診があつた。それは 15 cc 注入で不通と診定したが造影法では疏通してをり，

さらに 3 ヶ月後，正常に妊娠した 26 歳 3 年間不妊の未産婦であつた。疏通例中には誤謬はない。判定の確



30 cc 灌腸器

實性は 95.8% で從來報告されてゐる通氣法，あるひは造影法に比して劣らない。實施は主として月經直後を選んだが月經前期に當つた 2 例は共に疏通した點から敢て後期を選ぶ必要もないらしい。

本法の治療効果に就て。41 例中本法施行後 3 ヶ月以内に妊娠したものは 6 例 (14.6%) あり，このうち卵管開口手術 1 例，單なる内膜搔爬手術 1 例あり，他の 4 例は特別加療することなくただ本法後妊娠したもので，1 例は卵管妊娠であつた。妊娠例の不妊期間は 3, 5, 6, 8 年各 1 例，9 年 2 例で，また原發不妊 3 例，二次不妊 3 例であつた。

副作用に特筆すべきものはない。實施時下腹痛を訴へたもの 12 例 (29.2%) あり，このうち 1 例のみ翌日に及びまた 1 例は悪心を伴つたが他はすべて一過性で通水終了と共に消失し危険症狀は 1 例もなかつた。不通例に腹痛を訴へるものが多い。

上述の如く本法は極めて簡易に實施され熟練を要せず特別の装置や材料の必要なく危険な副作用なく診断の確實性も高く且つ治療効果も著しく便利な一診断治療法であると思はれるが只卵管の左右何れが疏通であるかを決定できない不便がある。

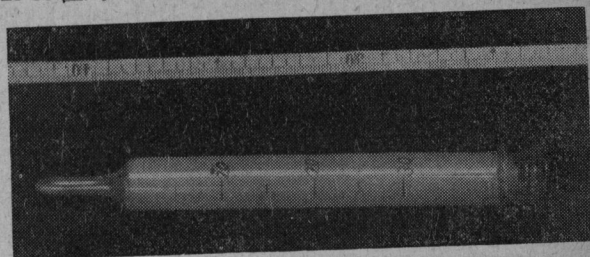
[追つて同仁會醫學雜誌に詳報する]

(受附：昭和 17 年 3 月 24 日)

た。

実験 41 例ありその年齢は 19-40 歳で原發不妊 27 例，二次不妊 14 例で不妊期間は 1-3 年 12 例，4-21 年 29 例で，本法で卵管疏通と診定したものの 20 例，不通 21 例であつた。通水量は卵管不通例では 7-10 cc 14 例，12-20 cc 7 例，疏通例では 15-30 cc であつた。全例中開腹手術及び造影法で診断を確定したものは 24 例あり，このうち不通例中 1 例の誤診があつた。それは 15 cc 注入で不通と診定したが造影法では疏通してをり，

さらに 3 ヶ月後，正常に妊娠した 26 歳 3 年間不妊の未産婦であつた。疏通例中には誤謬はない。判定の確實性は 95.8% で從來報告されてゐる通氣法，あるひは造影法に比して劣らない。実施は主として月経直後を選んだが月経前期に當つた 2 例は共に疏通した點から敢て後期を選ぶ必要もないらしい。



30 cc 灌腸器

本法の治療効果に就て。41 例中本法施行後 3 ヶ月以内に妊娠したものは 6 例 (14.6%) あり，このうち卵管開口手術 1 例，單なる内膜搔爬手術 1 例あり，他の 4 例は特別加療することなくただ本法後妊娠したもので，1 例は卵管妊娠であつた。妊娠例の不妊期間は 3, 5, 6, 8 年各 1 例，9 年 2 例で，また原發不妊 3 例，二次不妊 3 例であつた。

副作用に特筆すべきものはない。実施時下腹痛を訴へたもの 12 例 (29.2%) あり，このうち 1 例のみ翌日に及びまた 1 例は悪心を伴つたが他はすべて一過性で通水終了と共に消失し危険症状は 1 例もなかつた。不通例に腹痛を訴へるものが多い。

上述の如く本法は極めて簡易に實施され熟練を要せず特別の装置や材料の必要なく危険な副作用なく診断の確實性も高く且つ治療効果も著しく便利な一診断治療法であると思はれるが只卵管の左右何れが疏通であるかを決定できない不便がある。 [追つて同仁會醫學雜誌に詳報する]

(受附：昭和 17 年 3 月 24 日)